

# 浅間山噴火を想定した防災訓練

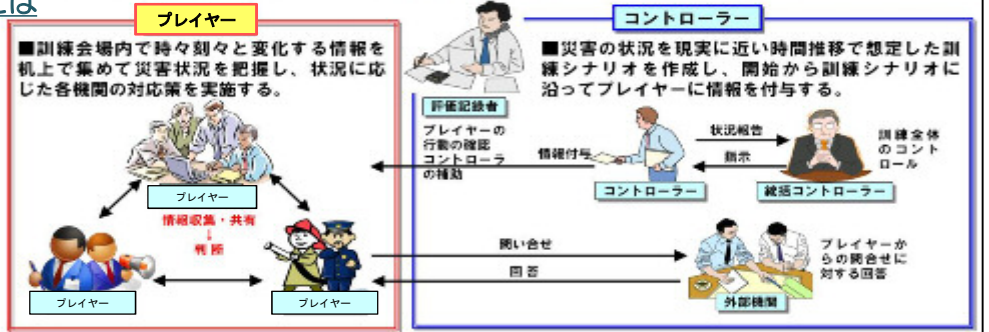
浅間山噴火時の防災対応を円滑かつ効果的に実施するためには、平常時からの防災訓練が重要です。このため、浅間山周辺の自治体及び防災関係機関等から構成される浅間山火山防災協議会は、浅間山噴火時の防災行動の確認、関係機関の情報連絡体制の確認等を目的としたロールプレイング方式の防災訓練を平成28年12月14日（水）に実施しました。

本訓練は平成19年度から実施され今回が10回目で、初めて長野県内を会場に実施しました。

## ロールプレイング方式訓練とは

防災訓練には実働型と図上型があり、ロールプレイング方式防災訓練は図上型です。

机上で情報を集めて、災害状況を疑似体験し災害対策の一員として、どのように対応していくかを習得するための訓練です。（疑似体験訓練法）



## 訓練会場：長野県佐久合同庁舎

プレイヤー 利根砂防

コントローラー機関



訓練開会挨拶  
小泉小諸市長



小諸市



長野・前橋地方気象台



陸上自衛隊  
長野県危機管理部



記者会見訓練

41機関  
96名  
が参加

群馬県危機管理室



## 訓練実施目的

- ・融雪型火山泥流に係わる防災行動、情報連絡体制の確認
- ・砂防部局による緊急調査及び緊急減災対策の実施内容の確認
- ・火山防災協議会(コアグループ)の活動内容の確認、実働に向けての課題抽出
- \* プレイヤーは、コントローラーからの情報で災害時にどのような行動を行うのかを実践的に訓練します。

## 参加機関

長野県、群馬県、佐久市、小諸市、御代田町、軽井沢町、嬭恋村、長野原町内閣府、気象庁、国土地理院、自衛隊、警察、火山専門家、高崎市、安中市、長野国道事務所、高崎河川国道事務所、プリンスホテル、しなの鉄道、白糸ハイランドウェイ、東日本高速道路、利根川水系砂防事務所 等

## 訓練内容

噴火警戒レベル3・・・緊急減災工事状況報告、自衛隊への災害派遣要請等協議会による合同会議訓練

噴火警戒レベル4・・・通行規制、避難所開設、住民周知 等

噴火警戒レベル5・・・火砕流発生、融雪型火山泥流発生の情報連絡・共有、避難者の確認、避難所の運営、 等

合同記者会見訓練

訓練報告会……………プレイヤー機関からの訓練報告  
講評……………火山専門家の訓練講評

## 融雪型火山泥流とは？

浅間山火山砂防事業の対象現象の1つである、「融雪型火山泥流」について、解説します。

噴火現象の一つである、「火砕流」は、火山から噴出した、火山灰や溶岩片が高速・高温で斜面をなだれ下る現象で、**温度は数百度にも達し、時速は100km**を超えることがあります。

「融雪型火山泥流」は、雪が山頂付近に積もっている冬場に、火砕流が発生した場合に、高温の火砕流が雪を融かし、「細かい土砂を含んだ泥のような流れ(泥流)」となることです。

「融雪型火山泥流」は流下速度が速く(時速約60km)、到達距離も長く(10km超)なるため、大規模な災害を引き起こしやすい現象です。

浅間山では、右の写真のように小規模な火山泥流が発生した事例があり、今後も大規模な融雪型火山泥流が発生する恐れがあるとして、ハザードマップが発表となっています。



1973年2月火砕流の様子(上)  
と発生した火山泥流の黒い筋(下)